

事務事業名	<H24新規>地域ぐるみの捕獲推進モデル事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	農林商工部		単位番号	2012- 999029					
			所属課室	みどり自然課		課長名	杉山啓子					
			所属担当			担当者名	廣瀬和弘					
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政 策		07	農林水産業の振興		事業区分	☒ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業					
施策		12	生産を支える基盤の整備充実			☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業					
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (H24 ～ H26 年度)		法令根拠									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 平成24年度に環境省の新規モデル。山梨県が委任を受け、南アルプス市がモデル地域に選定された。ニホンジカの植生環境被害及び農業被害の恒常化に伴い地域住民や農業従事者がわな免許を取得する機会を創出し、ニホンジカの適正個体数維持に努める。 事業区域: 櫛形地区 事業予算: 3,970,000円(国支出金⇒櫛形地区鳥獣被害対策協議会へ) 内容: モデル地区内ニホンジカ生息状況、被害状況調査、わな捕獲研修、事業成果発表会等					事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)						
						項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)			
						需用費	649					
						委託料	1,366					
										計	2,015	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	ニホンジカ生息、被害状況調査、協議会の設置、わな捕獲研修、事業成果発表会の開催等
25年度活動予定	
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
	急増するニホンジカの被害防止。植生環境の保護と保全、農業被害の実態とその防除。
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
	急増するニホンジカの生息個体数を適正維持すること。
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
	ニホンジカの捕獲によって適正な生息個体数を目指し、櫛形山の半自然草原の植生環境維持と農作物の被害を減少させる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:生息・被害状況調査	
	イ:協議会の設置	
	ウ:わな捕獲研修の開催	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:ニホンジカ個体数の減少	
	イ:わな捕獲従事者の増加	
	ウ:	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:わな捕獲従事者	
	イ:	
	ウ:	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:ニホンジカの生息個体数	
	イ:	

(2) 事業費・指標の推移			単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円			2,041					
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円		2,015						
	事業費計 (A)			千円	0	2,015	2,041	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間								
		人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	(A)+(B)			千円	0	2,015	2,041	0	0	0	0
活動指標		ア イ ウ									
対象指標		ア イ ウ									
成果指標		ア イ ウ									
上位成果指標		ア イ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成24年度に環境省から山梨県へ委任された。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べどう変化しているか？また、今後の予測は？	平成24年度に開示された新規事業である。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	ニホンジカの個体数を減少させる。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☒ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	24年度新規事業であり、過去の実績実務が存在しない。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	《H24新規》地域ぐるみの捕獲推進モデル事業	所属部	農林商工部	所属課	みどり自然課
-------	------------------------	-----	-------	-----	--------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 急増する野生動物の食害被害を個体数調整により減少させるので、目的に合致している。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 現時点では、市が中心となり、地域の担い手を養成し、活動するための環境づくりを整えるので、市で行う必要性が高い。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 ニホンジカ、ニホンザル、イノシシの食害防止や生活環境の被害防止を防ぐため、将来にわたり実施する必要性が非常に高い。また、地域住民からもこれらの被害を減らして欲しいとの要望が非常に高い。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ニホンジカの生息状況調査と被害状況調査により、効率的な捕獲圧を高めることができる。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☒ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 有害鳥獣被害対策との統合により、予算の効率的な使途が明確である。 ☐ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ニホンジカがさらに増加し、被害が広がる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 ニホンジカがさらに増加し、被害が広がる。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由↓】 24年度において楡形地区におけるニホンジカの生息状況や行動状況、併せて被害状況が明らかになってくるので、その調査結果を反映させながら、効率的な捕獲圧を高めることができる。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 人件費については、調査及びその解析に必要である。調査成果により、人件費は削減できる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 地域住民の要望に対して公平、公正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり	生息・被害状況調査の実施及びわな捕獲研修会を開催して、ニホンジカの捕獲をすすめてきた。5頭を捕獲した実績は残したが、地域での捕獲体制の構築が進められなかったため、今後の課題となった。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果	③																					
		コスト削減優先度評価結果	⑪																					